【映画・ドラマ・アニメの原作】

「映像化原作 2022 春」コーナーの本から紹介します。

『元彼の遺言状』新川帆立／著（宝島社）

弁護士の麗子のもとに、元彼の栄治が亡くなったという知らせが入ります。栄治は「自分を殺した人に財産を贈る」という遺言状を残していました。キャラクターが個性的で、読みやすいミステリーです。

『余命 10 年』小坂流加／著（文芸社）

２０歳の茉莉は病にかかり、余命 10 年と知ります。未来をあきらめ、恋はしないと決めていました。“涙より切ない”ラブストーリーというキャッチコピーのままの物語です。

作者の小坂さんは、この作品の本が刊行される前に亡くなられたそうです。

『SPY×FAMILY 家族の肖像』遠藤達哉／原作、矢島綾／小説（集英社）

スパイのロイドは、任務のために偽装家族として娘アーニャと妻ヨルを迎えました。実はアーニャにもヨルにも秘密がありますが、お互いの素性は隠したままです。この本には、アーニャの通うイーデン校の自然教室の様子など、マンガにはないエピソードが描かれています。

『ハケンアニメ！』辻村深月／著（マガジンハウス）

タイトルにあるハケンとは、「覇権（はけん）」のことです。１クールの放送期間の中で、一番人気がある作品を目指します。視聴者の心に残る作品を作りたいという制作関係者たちが描かれています。アニメ制作に興味のある人におすすめです。

図書室には他にも映像化原作の本がありますよ。